「持続可能な社会の創り手」を育てるための

FTC チェンジメーカー教育プログラム ガイドブック

CHANGE MAKERS 教育プログラム

FREE THE CHILDREN

【目次】

Welcome to 「FTC チェンジメーカー教育プログラム」 3
STEP 0　セーフスペース（安心できる空間）づくり 6
STEP 1　取り組みたい社会問題を決めよう 7
STEP 1-A　社会とのつながりを考える 7
STEP 1-B　地域社会・グローバル社会の問題を考える 8
STEP 1-C　SDGs(持続可能な開発目標)の理解 11
STEP 1-D　子どもの権利条約を考える 13
STEP 2　目標を決めてアクションプランを立てよう 14
STEP 2-A　チームビルディング 15
STEP 2-B　アクションの種類 16
STEP 2-C　アクションを考える 18
アクションキット 19
アクションキャンペーン 20
活動証明書・出前授業 21
FTC チェンジメーカー教育プログラム・出前授業導入事例 22
STEP 3　TAKE ACITON!アクションを起こそう 25
STEP 3-A　アクションを起こすコツと注意点を知る 26
STEP 4　アクションを振り返り、報告・たたえ合おう（お祝いしよう） 27
STEP 4-A　振り返りをする 27
STEP 4-B　Change Makers Fes に参加する 29
チェンジメーカーとなった先輩たち 30
先生方の声 31

認定 NPO 法人フリー・ザ・チルドレン・ジャパンの紹介

フリー・ザ・チルドレン・ジャパン（以下、FTCJ)は、貧困や搾取などの過酷な環境から子どもを解放することを目的として、1995 年に当時12歳だったカナダの少年クレイグ・キールバーガーにより設立された団体「Free The Children（2016 年 8 月に WE Charity に改名）」を母体として、1999 年から日本で活動を始めた NPO です。日本では延べ2万人以上の若者が FTCJ の活動に参加し、年間 100 校以上で出前授業を実施しています。社会科や英語など、10 冊以上の教科書に活動が掲載されています。

【教材一覧表】

教材名	重要度	対象学年	所要時間の目安
STEP0-A:セーフスペースづくり	★★★★★	全学年	15~30 分
STEP1-A1:社会とのつながりを考える	★★	小学校 3 年生以上	45 分~
STEP1-A2:問題コンパス	★★★★★	全学年	45 分~
STEP1-B1:問題クモの巣	★★★★	小学校 5 年生以上	40 分
STEP1-B2:ワールドマップ	★★★★★	小学校3年生以上	45 分~
STEP1-B3:国際問題:児童労働	★★★	小学校 4 年生以上	45 分~
STEP1-C1:ペアを探せ!SDGs 問題マッチング	★★★★★	全学年	20 分(SDGsの解説を入れる場合:45 分)
STEP1-C2:24 時間 SDGs を探せ	★★	全学年	30 分
STEP1-C3:将来の夢×SDGs を探せ	★★	全学年	45 分
STEP1-C4:ブロックゲーム	★★★★★	全学年	40 分
STEP1-D1:子どもの権利条約を学ぶ	★★★★★	全学年	45 分
STEP1-D2:子どもの権利チケット カードゲーム	★★★★★	全学年	40 分
STEP1-D3:元少年兵と学ぶ コンゴ紛争と私たちの生活	★★★★	小学校 4 年生以上	45~60 分
STEP2-A1:コールキャッチボール	★★★	全学年	20 分
STEP2-A2:ナンバー・タッチ	★★★	全学年	20~30 分
STEP2-A3:ラインアップ	★★★	全学年	20~40 分
STEP2-B1:インスピレーションカードゲーム	★★★★★	全学年	45 分
STEP2-C1:Gift + Issue = Change	★★★★★	全学年	30 分
STEP2-C2:S.M.A.R.T 目標を知ろう	★★★★★	全学年	45 分

【コラム・紹介等】

非認知能力／社会人基礎力 5
グローバル人材／グローバル・シティズンシップ教育の学習目標 9
SDGs「Sustainable Development Goals(持続可能な開発目標)」..... 10
子ども向け SDGs冊子の紹介..... 12
アクションの種類 16
「S.M.A.R.T. 目標」とは／アクションプランを考えるためのシンプルなワークシート..... 18
ファシリテーション 23
実践事例:子どもたちから企業への提言活動..... 25
アクションを成功させるために 26
アクションを起こすことによる変化 28

Welcome to 「FTC チェンジメーカー教育プログラム」

2020 年施行の学習指導要領には、これまでの日本の学校教育にはなかった、様々な価値観・考え方が盛り込まれました。その前文で示された、これからの学校教育に求められることは以下のようなものです:『一人一人の児童(生徒)が自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値ある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようすること』。学校の先生方をはじめ、子どもと接するすべての方々に心から敬意を表するとともに、みなさんを応援したいという想いから、この「FTC チェンジメーカー教育プログラム」は生まれました。

私たちフリー・ザ・チルドレン・ジャパン(以下、FTCJ)が目指すのは、「世界のすべての人々が『誰一人取り残されることなく』、心もからだも健康で、自身の夢や希望を実現でき、国籍・宗教・年齢・性別・文化、障害に関係なく、互いを認め合い、互いに勇気づける多様性のある社会」です。そんな社会を共に実現するために、多くの方に本プログラムをご活用いただき、みなさんと共により良い世界のために歩んでいけたらと願っています。

FTC チェンジメーカー教育プログラム とは

子どもたち一人ひとりが社会問題を自分ゴトとして捉え、問題解決に向けた行動を起こせるようになるために、FTCJ が開発したサービス・ラーニングの教育プログラムです。サービス・ラーニングとは、地域社会の課題解決を目的とした社会的活動(サービス活動)に、子どもたち自身が積極的に関与することを通して、市民性(シティズンシップ)を培うための教育方法です。

FTCJ は、学校教育の中でサービス・ラーニングを行うためにカナダで開発されたプログラム“WE Schools”を元に、日本での活動経験や、他国での実践例、グローバル・シティズンシップや子どもの社会参画、アクティブ・ラーニングの要素を取り入れ、日本向けの新しい教育プログラムを開発しました。

「FTC チェンジメーカー教育プログラム」の4ステップ

FTC チェンジメーカー教育プログラムは、サービス・ラーニングを 4 つのステップで実践することができます。

【4 つのステップ】

1 取り組みたい問題を精査し理解を深める
2 目標を決めてアクションプランを立てる
3 実際にアクションを起こす
4 アクションをふり返り、たたえ合う

FTC チェンジメーカー教育プログラムの4つのステップを通じて、学習者である子どもや若者は、国内外にある社会問題を知り、それらの社会問題が自分と関係していることに気づきます。そうすることで、子どもや若者は社会問題に向き合い、解決に向けた変化を起こせると感じることができます。最終的に子どもや若者は、得意なことや好きなことを用いたソーシャルアクションを通じて変化を起こすことを目指します。

「FTC チェンジメーカー教育プログラム」を使うには・・・

まずは FTCJ のウェブページ内、「教育・学校関係の方へ(https://ftcj.org/teachers/)」より「無料登録」をお願いします。ご登録後、「教材ダウンロードページ」のパスワードをお送りします。各アクティビティの授業案や、スライド資料・ワークシートは、「教材ダウンロードページ」から無料でダウンロードしていただくことができます。

FTC チェンジメーカー教育プログラム ガイドブックの使い方

このガイドブックは、学校や課外活動においてサービス・ラーニングプログラムを進めるにあたり、FTC チェンジメーカー教育プログラム教材（WE ラーニングキット）をどのように使うかに関する説明書です。授業での導入方法や進め方、学習者（児童や生徒）が社会問題を解決するために何らかのアクションを起こすためのヒントや、実践的に活用できる授業案が入っています。

全てのプログラムは無料でだれもが利用することができ、指導者向けの手引き、授業用資料などが用意されていますので、どうぞご活用ください。

FTC チェンジメーカー教育プログラムを通じて得られるスキル

学習者（子ども・若者）は無力感や無関心の状態から、自分が関わることで社会に変化を起こし、貢献できると実感することで、何事にも挑戦しようという気持ちや力を育むことができるようになります。具体的には FTC チェンジメーカー教育プログラムを通じて「学ぶ意欲や機会の増加」「大学進学や就職への準備の向上」「積極的社会参加の浸透」の3分野に向けて、8 つのスキルを養えるようデザインされています。(下記の図表をご覧ください) これから何を大切にして、どう社会とかかわりを持ち、どのような人生にするか」といったキャリア教育としても本プログラムを活用いただけることでしょう。

▼FTC チェンジメーカー教育プログラム フレームワーク (枠組み)

成果・効果

ゴール・目標

スキル・力

◇WE 教育プログラムを通じて養える8つのスキル(力)：
Argument Formation 対話姿勢、Information Literacy 情報リテラシー、Leadership リーダーシップ、Organization 組織力、Action Planning 企画構想力、Research and Writing 調査研究・文章力、Critical Thinking 批判的思考力（クリティカルシンキング）、Reflection 省察的観察力（振り返りを活かす力）

【コラム】

□非認知能力

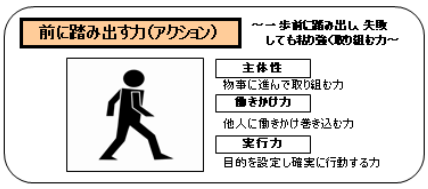
「非認知能力」とは、経済学や心理学で使われる言葉で、IQ や学力テストなどの認知能力以外の能力を広く捉えるための言葉です。パーソナリティや対人能力ともいえるでしょう。 具体的には、下記の要素が挙げられます。

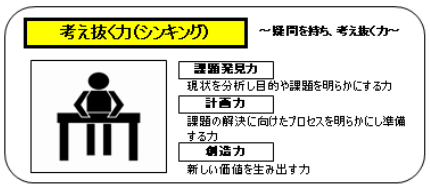
自己認識（Self-perceptions）：自分に対する自信がある、やり抜く力がある
意欲（Motivation）：やる気がある、意欲的である
忍耐力（Perseverance）：忍耐強い、粘り強い、根気がある、気概がある
自制心（Self-control）：意志力が強い、精神力が強い、自制心がある
メタ認知ストラテジー（Metacognitive strategies）：理解度を把握する、自分の状況を把握する
社会的適正 （Social competencies）：リーダーシップがある、社会性がある
回復力と対処能力 （Resilience and coping）：すぐに立ち直る、うまく対応する
創造性（Creativity）：創造性に富む、工夫する
性格的な特性（Big5）：神経質、外交的、好奇心が強い、協調性がある、誠実

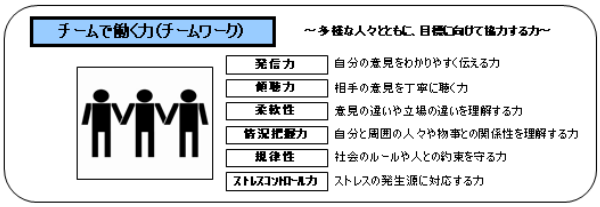
非認知能力を鍛える手段として、高校生が高齢者にコンピューターの使い方を教えるという社会奉仕活動のように、教室で学んだことを地域社会で問題解決のために生かすような教育やアウトドア活動などが有効であるといわれています。（「学力」の経済学 中室牧子著より引用/ 参照：国立教育政策研究所）

□社会人基礎力

「社会人基礎力」とは、「前に踏み出す力」「考え抜く力」「チームで働く力」の３つの能力（12の能力要素）から構成されており、「職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力」として、経済産業省が 2006 年に提唱した能力像です。







「人生 100 年時代」や「第四次産業革命」の下で、2006 年に発表された「社会人基礎力」はむしろその重要性が年々増してきています。「人生 100 年時代」ならではの切り口・視点が必要となっていました。

こうした状況を踏まえ、2017年に開催した「我が国産業における人材力強化に向けた研究会」では、これまで以上に個人と企業・組織・社会との関わりが長くなる中で、ライフステージの各段階で活躍し続けるために求められる力を「人生 100 年時代の社会人基礎力」と新たに定義しました。そこでは、社会人基礎力の３つの能力／12の能力要素を変化させずに、能力を発揮するにあたり、自己を認識してリフレクション（振り返り）しながら、目的、学び、統合のバランスを図ることが、自らキャリアを切りひらいていく上で必要であると結論付けています。
（引用：経済産業省 社会人基礎力 http://www.meti.go.jp/policy/kisoryoku/）

※「社会人」を広辞苑で調べると、①社会の一員としての個人。②実社会で活動する人。とあり、子どもから高齢者まであらゆる立場の一個人を表す言葉のようです。しかし、多くの場面では「一定の収入のある働く人」のみを定義しており、排他的な意味合いがあると感じるため、使用には注意が必要だと FTCJ では考えています。

STEP 0（ゼロ） セーフスペース（安心できる空間）づくり

FTC チェンジメーカー教育プログラムには、児童・生徒（学習者）が社会問題を理解し、解決に向けたアクションを起こしていく過程で、様々なグループディスカッションや意思決定の機会が用意されています。こうした過程においては、仲間と意見を交わすことが数多く予想されます。そこで、そうした時に一人ひとりが安心して意見や疑問を発せられるような「セーフスペース（安心できる空間）」を作ることが重要になります。

どういった空間や環境であれば、誰もが安心して自分の意見や気持ちを表せるのかのガイドラインを学習者自身が考えるのが「セーフスペース」のアクティビティです。このとき、見方や感じ方は人それぞれ違っていて良いこと、だからこそ対話は重要であることを伝えるとよいでしょう。セーフスペースで作ったガイドラインは、必要があれば見直し、みんなで確認しながらアップデートできることを伝えていきます。

※学習者の状況や関係性に合わせ、導入のヒントとして実施の有無をご判断ください。

このセクションのねらい・つけさせたい力・評価の観点

ねらい

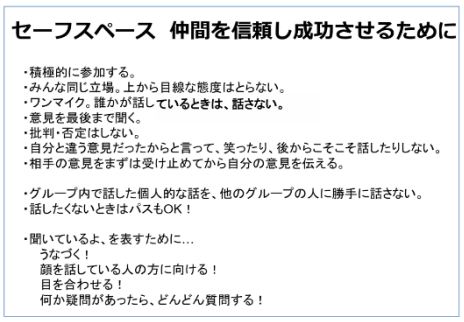
- 学習者が安心して発言したり、アクションに取組んだりする環境を整える。
- クラス（グループ）の一体感を醸成する。

評価

- 安心して発言したり、アクションを起こしたりするための要素を想像できるか。
- 異なる意見や価値観を持った人と理解しあうことの重要性を想像できるか。
- 異なる意見や価値観を見下したり、ふざけたりせずに参加することができているか。

アクティビティ STEP 0－1　セーフスペース（安心できる空間）づくり

学習者の児童や生徒が、安心して参加し、発言ができるような場づくりをするためのアクティビティです。共に活動に取り組む仲間として、学習者が相互に尊重し、参加し、発言ができるようにするにはどんなガイドライン(約束）があれば良いかを学習者自身が考えます。例えば、発言者の方を向いて話を聞く、無理強いをしない、拒否権がある、ここで話したことは他の場では言わない、などの意見が出されるかもしれません。また、すでにクラス（グループ）にある約束ごとなどと繋げて考えるよう促すなど、多様な決め方が可能です。


セーフスペース　仲間を信頼し成功させるために

・積極的に参加する。
・みんな同じ立場。上から目線な態度はとらない。
・ワンマイク。誰かが話**しているときは、話さない。**
・意見を最後まで聞く。
・批判・否定はしない。
・自分と違う意見だったからと言って、笑ったり、後からこそこそ話したりしない。
・相手の意見をまずは受け止めてから自分の意見を伝える。

・グループ内で話した個人的な話を、他のグループの人に勝手に話さない。
・話したくないときはパスもOK！

・聞いているよ、を表すために…
　うなづく！
　顔を話している人の方に向ける！
　目を合わせる！
　何か疑問があったら、どんどん質問する！

参考：小学6年生の学級で作成したセーフスペースの内容（ガイドライン）

STEP I（ワン） 取り組みたい社会問題を決めよう

STEP I－A 社会とのつながりを考える（気持ちの醸成へのヒント）

FTC チェンジメーカー教育プログラムを始めるにあたり、指導的な立場にある方は学習者（児童・生徒）に自分たちが属している地域社会に目を向けさせ、世界にも視野を広げられるように促してください。STEP I では、身のまわりの些細なモノであっても、地域や世界と関係していることに気づくことから始めます。どういった関係かを考えることで、学習者は地域社会や世界が抱える様々な問題を身近に感じ、自分ゴトとして捉えられるようになります。

FTC チェンジメーカー教育プログラムは、社会問題の解決に向けたアクションを起こすことにとどまらず、「これから何を大切にして、どのように生き、どのようにして平和な社会や実りある自分自身の人生に作りあげるか」といったキャリア教育につながる要素を含んでいます。

このセクションのねらい・つけさせたい力・評価の観点

ねらい

- 学習者が、自身と地域や世界との繋がりの理解を深める。
- 相互依存の関係で生活が成り立っていることを理解する。

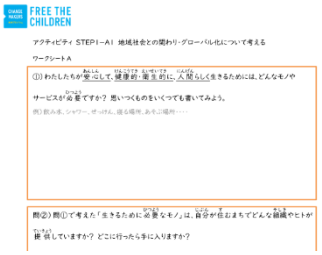
評価

- 地域、国、世界の様々な構造についての知識を深めたか。
- 相互依存と地球規模の繋がりを理解しているか。
- 地域、世界との繋がりが自分ゴトになっているか。

※社会問題に対して興味関心が低い児童・生徒が多い場合、このプログラムに関心を持ってもらうための内容です。学習者の状況に合わせ、導入のヒントとして実施の有無をご判断ください。

アクティビティ STEP I－A1 社会とのつながりを考える

地域（ローカル）との繋がりと、世界（グローバル）との繋がりを身近な生活スタイルから考えていきます。当たり前に存在する自分が生活する地域社会（まち）や国際社会を見つめ、繋がりを実感できるようにします。


FREE THE CHILDREN

アクティビティ STEP I－A1 地域社会との関わり-グローバル化について考える

ワークシートA

①わたしたちが安心して、健康的・衛生的に、人間らしく生きるためには、どんなモノやサービスが必要ですか？ 思いつくものをいくつでも書いてみよう。

例）飲み水、シャワー、ぜったん、寝る場所、あそこ場所・・・

問②）問①で考えた「生きるために必要なモノ」は、自分が住むまちでどんな組織やヒトが提供していますか？ どこに行ったら手に入りますか？

アクティビティ STEP I－A2 問題コンパス

様々な社会問題をグループ内で整理し、メンバーの中でどのアクションに取り組みたいか、どの問題に興味関心があるかを見つけるアクティビティ。STEP2のアクション計画を立てるにあたり、意見をまとめる際に活用いただけます。

STEP I－B 地域社会・グローバル社会の問題を考える

私たちの身近な存在である地域や、遠い存在と捉えられやすい国際社会は、大小様々な問題を抱えています。相互にかかわる関係性の中で、意見や価値観の違いから対立が起きたり、人権が守られず侵害されたり、自然環境に負荷がかかったりといった社会問題が生じています。それらの問題に、どう一人ひとりが関わっているのか、ということを理解していきます。

このセクションのねらい・つけさせたい力・評価の観点

ねらい

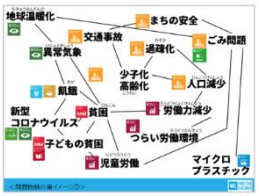
・自分と社会や世界とのつながり、地域、国、世界の様々な問題や国同士の相互関連性と相互依存性について理解を深める。
・批判的思考力と分析力を向上させる。

評価

・自分と社会や世界とのつながりを積極的に捉えようとしているか。
・地域、世界の様々な問題や、管理システム、制度、構造についての知識があるか。
・相互依存と地球規模の課題と地域的な課題の繋がりを理解しているか。
・批判的質問と、批判的分析の能力があるか。

アクティビティ STEP I－B1 問題クモの巣

学習者は思いつく社会問題を書き出し、社会の繋がりや問題が絡まっていることを視覚的にイメージします。その後、問題解決に向けてアクションを起こす際に、大規模なアクションに取り組むということが素晴らしいわけではなく、どんなことでも問題は繋がっており、自分の興味関心事から取り組む意義を醸成します。



アクティビティ STEP I－B2 ワールドマップ

私たちが住んでいる地域や世界には、どんな人が、どのような暮らしをしているのかを視覚的に理解します。オリンピックのメダル獲得数や、食料消費の割合、小学校卒業率、富の分布などの状況を大陸ごとに比較して学びます。学習者一人ひとりがそれぞれの大陸ごとに生きる人となり、生まれた場所によって環境が違い、貧富の格差があることなどを理解します。

アクティビティ STEP I－B3 国際問題：児童労働

前単元で、「南北問題」や「地域格差」を目の当たりにして、学習者は社会問題の構造をイメージすることができたと思います。乗り越えられない格差により、毎日を生き延びるだけでも大変な貧しい生活を送っている子どもが世界にはたくさんいます。世界の同世代の過酷な環境で働く「児童労働問題」を学習者と一緒に見ていきます。

【コラム】

□グローバル人材

独立行政法人 国際協力機構（JICA）イベント「池上彰と考える『グローバル人材とは何か』」（2013 年 9 月 28 日開催）より

・日本について客観的な目を持つことに加え、自分とは違う物の見方や考え方をする人がいるという多様性を常に意識することが大切である。
・世界に通用する人材として「リベラルアーツ（人間としての教養）」を身に付けることで、即効性はないが人間力につながるのではないか。
・グローバル人材とは、生き方そのものを表す。生きていく上で大事な素質や資質を身につけて自分の人生を豊かにし、『自分は世のため人のためになっている。社会の中で生きていく価値があるのだ』という充実感を持つことが大切。（中略）ぜひ、自分の存在は意味があるということを自覚できるような生き方や働き方をしてほしい。それが結局はグローバル人材につながる。

□グローバル・シティズンシップ教育の学習目標

年齢別のグローバル・シティズンシップ教育の学習目標として、ユネスコ協会では下記の表を発表しています。地域・国際社会の課題を調べる際に、どこまで伝えるのか指標にしてみてください。3 トピックに分けて学習を進めることができます。

1. 地域、国家、グローバルレベルのシステムと構成
2. 地域、国家、グローバルレベルにおけるコミュニティの連結性に影響する課題
3. 推論、ダイナミクスの基本的理解

テーマ	学習目標			
	就学前絵及び前期初等教育(5-9歳)	後期初等教育(9-12歳)	前期中等教育(12-15歳)	後期中等教育 (15-18+ 歳)
1. 地域、国家、国際社会の仕組みとその構造への理解を深める	地域環境がどのように構成され、それがどのように広範囲な世界と関連しているのか表現する能力を身に着ける。グローバル シティズンシップという概念を初めて知る。	政府機関の統治構造や、政策決定の過程を理解し、その過程において市民が有している権利や権限を理解する。	国際社会の統治構造が、地域、国家の統治構造にどのように作用しているのかについて議論する能力を身に着ける。グローバルシティズンシップを本格的に学んでいく。	国際社会の統治構造、諸事の決定過程などが、グローバルシティズンシップに与える影響を批判的に分析する能力を身に着ける。
2. 諸問題が、地域や国家、及び国際社会での交流や連結にどのような影響を与えているのかを理解する	地域や国家、国際社会が抱えている課題を学び、その諸課題がどのような繋がりを持って絡み合っているのかを理解する。	国際社会が抱えている諸問題の背景や、それが国家や地域にどのような影響を及ぼしているのかを調べる。	地域や国家、国際社会が抱えている主要問題の根源となっているルーツを調べ、それらがどのような繋がりを持って絡み合い、地域や国際社会にどのような影響を及ぼしているのかを調べる。	国際社会のつながりにおける意思決定が適切であるか、責任と結果はどうなっているのかを、地域や国家ごとに調べ、対策を考える。
3.通説となっている事柄や、権力構造を検証する能力を身に付ける。	数の異なる情報源を知り、それらを活用しながら物事を調べる能力を身に着ける。	事実と意見、現実とフィクションの違いを理解し、異なる意見や見方があることを理解する。	通説を検証する能力を身に着ける。不平等や権力構造について説明できる能力を身に着ける。	権力構造が、意見の集約、必要なリソースへのアクセス、政策決定や統治にどのような影響を与えているかを批判的に検証する。
4.アイデンティティーを理解する。	私たちが普段どのように周囲の環境に適応し、他者と交流しているのかを理解し、自分や他者と向き合う力を身に着ける。	アイデンティティーの複合性や、それが他者との関係構築に与えている影響について調べる。	個人としてのアイデンティティーと集団としてのアイデンティティーを区別し、様々な社会集団があることを理解しつつも、人間社会として有している共通性があることを理解する。	社会集団が異なるアイデンティティーを有した他の社会集団とどのように交流し、平和的共存を図っているのかを批判的に検証する。
5.人々が営む様々なコミュニティーが、どのような繋がりを持っているのかを理解する。	複数の異なる社会集団を比較し、差異と共通点を説明する能力を身に着ける。	複数の異なる社会集団の社会的・文化的・法的規範を比較し、差異と共通点を検証する。	違いや多様性を尊重し、自分と異なる個人や社会集団に対する思いやりを持ち、連帯する気持ちを養う。	違いや多様性を尊重し、自分と異なる個人や社会集団に対する思いやりを持ち、連帯する気持ちを養う。
6.多様性を尊重する。	人には共通性と差異があることを理解し、すべての人が権利と責任を有していることを理解する。	多様な個人や集団と良好な関係を構築する。	多様性がもたらす利点と課題を議論する。	多様な集団や考え方と交わるために必要な価値観や態度、スキルを身に着け、それを活かす。
7.個人や集団として起こせるアクションを考える。	私たちが暮らす世界を改善するためにアクションを起こす方法を探る。	個人や集団でアクションを起こすことや、コミュニティーで活動することの重要性を議論する。	これまで、地域・国家・国際社会が抱えている問題の解決に際し、個人や集団が起こしてきたアクションがどのような役割を果たしてきたのかを調べる。	市民社会の一員となるためのスキルを身に着け、それを活かす。
8.倫理的責任を伴った行為について考える。	私たちの選択とアクションが、他者や地球に与える影響や、責任を伴った行動を実施することについて議論する。	社会正義と倫理的責任の概念を学び、毎日の暮らしに活かす方法を考える。	社会正義や倫理的責任がもたらす課題や葛藤、それが個人や集団が起こすアクションに与えている影響について分析する。	社会正義や倫理的責任がもたらす課題や葛藤、差別や不平等に対して、個人や集団でどのようなアクションを起こすか考え、行動する。
9.コミットし、アクションを起こしていく。	市民社会の一員としてコミットすることの重要性と利点を理解する。	主体的にアクションを起こすことができる機会や場を見つける。	主体的にアクションを起こし、公益を促進できるようになるためのスキルを身に着け、それを活かす。	世界をより良くするためのアクションの提案を行い、変革の担い手となる。

領域別・年次別のグローバル・シティズンシップ教育の学習目標（ユネスコ 2015）

Global Citizenship Education TOPICS AND LEARNING OBJECTIVES P31 より抜粋

□SDGs「Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）」

2015 年 9 月、ニューヨーク国連本部において「国連持続可能な開発サミット」が開催され、150 を超える首脳が参加して、MDGs「ミレニアム開発目標（Millennium Development Goals）」を受け継ぐ 2030 年までの新たな目標となる「持続可能な開発目標（SDGs）」が採択されました。

SDGs は、普遍的な平和の強化を追求する人間、地球及び繁栄のための行動計画です。2030 年を達成期限とする 17 のゴールと 169 のターゲット、その進展を評価するための指標を持つ包括的な目標です。”地球上の誰ひとり取り残さない（Leave No One Behind）”を誓い、持続可能な世界の実現を目指して、開発途上国のみならず、先進国自身が取り組むべきユニバーサルな目標です。2016 年から 2030 年までの 15 年間、世界の国々はこの「持続可能な開発目標」の達成に向けて協力しながら取り組んでいくことが重要になります。

▼重要な 5 要素（5Ps）からなる17のゴール

＊People［人間］＝世界の貧困をなくす

すべての人の人権が尊重され、尊厳をもって生きることができるようにする。貧困と飢餓を終わらせ、すべての人に質の高い教育が提供され、ジェンダー平等を達成し、水と衛生、健康的な生活を保障されている。

＊Prosperity[繁栄]＝「つづく経済」をつくる

すべての人が豊かで充実した生活を送れるようにする。自然と調和する経済、社会、技術の進展を確保する。

＊Planet[地球]＝環境を守り育てる

責任ある消費と生産、天然資源の持続可能な管理、気候変動への緊急な対応などを通して、地球を破壊から守る。

＊Peace[平和]＝仕組みつくり

平和、公正で、恐怖と暴力のない世界。すべての人が参加できる世界を目指す。

＊Partnership[協働]＝実現のための資金と協力関係づくり

政府、民間セクター、市民社会、国連機関を含む多様な関係者のパートナーシップを組んでゴール達成を目指す。

▼MDGs ってなに？なんで SDGs へ？

2000 年に国連で採択された「ミレニアム開発目標（Millennium Development Goals: MDGs）」の達成に向けた努力により、5 歳未満で命を落とす子どもが減り、より多くの子どもが学校に通えるようになるなど、多くの前進がありました。国際社会が数値目標を掲げたことが、多くの成果につながってきたのです。しかし達成期限の 2015 年が近づくにつれ、"平均値"で見る進展の陰に取り残された子どもたちがいることや、格差の拡大等、MDGs ではカバーしきれない問題があることもわかってきました。SDGs はそれらの反省を活かし、MDGs には含まれていなかった平和や暴力等の問題、また、近年明らかになってきた格差の拡大や環境問題等に対しても、経済・社会・環境の面から包括的に取り組む目標となっています。

STEP I－C SDGs(持続可能な開発目標)の理解

「このままだと地球も人類もあぶない！」私たちが住む社会や地球は、様々な脅威にさらされています。気候変動、貧困、格差拡大、汚染、野生生物の過剰利用・・・。そこで、2015 年の国連総会で世界の国々は、2030 年までに貧困を撲滅し、全ての人が平等な機会を与えられ、地球環境を壊さずに、より良い生活をおくるための「グローバル目標」に合意しました。その取り組みの指標とゴールが示されているものが、SDGs（「Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）」）です。

持続可能な社会の担い手として、子どもや若者を育てるためにも、SDGsの目標を他人事から自分ゴトに捉えられるよう SDGs の理解を進めることは重要です。なぜなら、私たちひとりひとりは、SDGs 達成に欠かせないグローバルなコミュニティの一員だからです。自分の関心の高い目標を見つけ、一人ひとりの行動を促していきましょう。

このセクションのねらい・つけさせたい力・評価の観点

ねらい

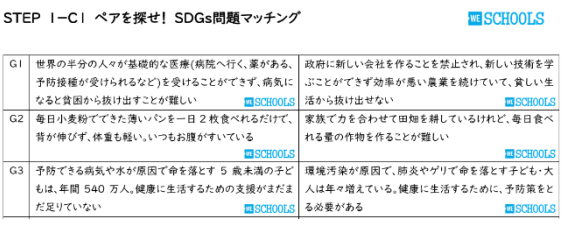
- 地域、国、世界が、様々な問題に対してどのように取り組んできたか理解を深める。
- なぜ目標が達成できていないのか、達成すべきなのかを多角的にとらえ、分析力を向上させる。
- 地域、国、地球単位で、より平和で持続可能な世界を創るためには、一人ひとりの行動が欠かせないことを理解し、責任を持った行動を起こすことが求められていることを理解する。

評価

- 地域、国、地球規模単位で、より平和で持続可能な世界を創るために、世界共通の目標が立てられ、達成に向け地域・世界が連携して動くべきことを理解しているか。
- 目標は、公益のために必要なことが包括的に考えられて作られていることを理解しているか。
- 社会問題が他人事から自分ゴトになっていることが感じられるか。
- 日々の生活が SDGsをはじめとする地域、世界の課題と繋がっていることを理解し、自分もその問題に関わっているという自覚が醸成されているか。
- 多角的な分析の能力があるか

アクティビティ STEP I－C I ペアを探せ！SDGs 問題マッチング

SDGsにはどのようなゴールがあるのかを学ぶためのアクティビティです。各ゴールの裏返しである問題を、1つのゴールにつき2つずつ配布し、 同じゴールを目指しているペアを見つけます。ペアを探す中で、できるだけ多くの問題に触れることで、SDGsのゴールを理解するだけでなく、なぜ必要なのかを理解できるようにしていきます。



STEP I－C I ペアを探せ！ SDGs問題マッチング WE SCHOOLS

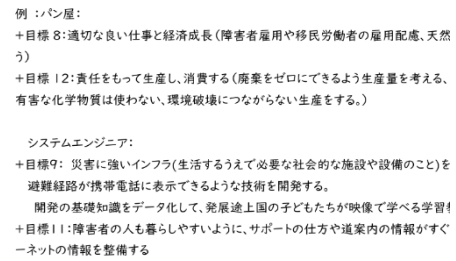
G1	世界の半分の人々が基礎的な医療(病院へ行く、薬がある、予防接種が受けられるなど)を受けることができず、病気になると貧困から抜け出すことが難しい WE SCHOOLS	政府に新しい会社を作ることを禁止され、新しい技術を学ぶことができず効率が悪い農業を続けていて、貧しい生活から抜け出せない WE SCHOOLS
G2	毎日小麦粉でできた薄いパンを一日２枚食べれるだけで、背が伸びず、体重も軽い。いつもお腹がすいている WE SCHOOLS	家族で力を合わせて田畑を耕しているけれど、毎日食べれる量の作物を作ることが難しい WE SCHOOLS
G3	予防できる病気や水が原因で命を落とす 5 歳未満の子どもは、年間 540 万人。健康に生活するための支援がまだまだ足りていない WE SCHOOLS	環境汚染が原因で、肺炎やゲリで命を落とす子ども・大人は年々増えている。健康に生活するために、予防策をとる必要がある WE SCHOOLS

アクティビティ STEP I－C2 24 時間 SDGsを探せ

SDGsの調べ学習をすることで、社会問題をより包括的に理解することができ、自分の興味がどこにあるかも明確にすることができます。 日常生活の中で、どのような物事が SDGs のどの目標と関連しているか探し、考えるアクティビティです。

アクティビティ STEP I－C3 将来の夢×SDGsを探せ

どんな分野のキャリアも SDGsに関わっていることや、SDGs達成に向け、具体的にどのような関わりを持つことができるのかを考えます。また、将来のキャリアだけでなく、消費者として現時点でどのように SDGs達成に関われるのかを考え、グローバルシティズンとしての基礎を育みます。


例 ：パン屋：
＋目標 8：適切な良い仕事と経済成長（障害者雇用や移民労働者の雇用配慮、天然う）
＋目標 12：責任をもって生産し、消費する（廃棄をゼロにできるよう生産量を考える、有害な化学物質は使わない、環境破壊につながらない生産をする。）

システムエンジニア：
＋目標9： 災害に強いインフラ(生活するうえで必要な社会的な施設や設備のこと)を
避難経路が携帯電話に表示できるような技術を開発する。
開発の基礎知識をデータ化して、発展途上国の子どもたちが映像で学べる学習
＋目標 11：障害者の人も暮らしやすいように、サポートの仕方や道案内の情報がすぐーネットの情報を整備する

アクティビティ STEP I－C4 ブロックゲーム

矛盾するミッションにチームごとで取り組むゲームを通して、対立がなぜ起こるのかを体感し、SDGs の意義や平和構築の方法について考えます。

子ども向け SDGs冊子の紹介

未来を担う子どもたちに、今世界がどんな問題に直面しているかを知り、自分たちの生活との関連や、目標を達成するために一人ひとりにできることを考えてもらうきっかけに。専門的な言葉も丁寧に説明されていて、子どもだけでなくおとなにとってもわかりやすい内容になっています。検索・ダウンロード：「私たちが目指す世界」

※原作はラテンアメリカの NGO、日本語版はセーブ・ザ・チルドレン・ジャパン、監訳は 10 の NGO や国際機関が協力して制作しました。

SDGs に関する FTCJ のウェブページや動画

・SDGs に関するウェブページ：
https://ftcj.org/we-movement/sdgs
・SDGs に関する動画
①SDGs とインドの子ども達：
https://www.youtube.com/watch?v=1AqTTFqvKN0
②インドの貧困と子ども達（みんなでつくる連動講座）：
https://www.youtube.com/watch?v=XwWKfAI5Mqk

STEP I－D 子どもの権利条約を考える

「権利が守られていない子ども」と聞くと、開発途上国などにいる貧困や紛争に直面する子どものことを思い浮かべる方が多いかと思います。しかし、日本でも子どもの権利が守られていない事例は多数報告されています。いじめや虐待など暴力にさらされている子ども、貧困に直面している子ども、自分に関わることなのに意見を聞いてもらえない子ども、少数派であることで差別をされている子どもなど、子どもの権利が守られていないケースは日本国内にもたくさんあります。

子どもの権利条約を学び、貧困や児童労働、いじめや差別は「悲しいこと・悪いことだからよくない」、と感情の側面からのみ考えるのではなく、「権利」が守られていないことが問題であること、そして、すべての子どもは生まれたときから「子どもの権利」を有し、一人の人間として尊重されるべき尊い存在であることを認識し、子どもの権利への理解を深めていきましょう。

このセクションのねらい・つけさせたい力・評価の観点

★FTCJ 高校生メンバーと作成した冊子「知ろう！子どもの権利条約 ～子どもの権利条約カード付ハンドブック」おススメです！ ぜひ、ご活用ください。

ねらい

・子どもの権利条約の内容について理解を深める。
・すべての子どもには、子どもの権利があり、一人の人間として尊重されるべき尊い存在であることを理解する。

評価

・子どもの権利の背景や内容に関して、理解を深めたか。
・18歳未満の学習者であれば、自分自身にかかわることであり、子どもの権利は、全ての子どもが持っている大切なものであることが理解できているか。
・貧困やいじめの問題が、かわいそうな問題ではなく、「権利」が守られていないことが問題であることを理解しているか。

アクティビティ STEP I－D1 子どもの権利条約を学ぶ

人権という言葉があります。誰でも、その人がその人らしくしあわせに生きる権利のことです。子どもも、人権をもっています。特に、子どもの権利については、「子どもの権利条約」などに定められていることや、子どもの権利条約がどうやって作られて、どんな内容なのかについて学んでいきます。

アクティビティ STEP I－D2 子どもの権利チケット カードゲーム

子どもが直面する困難な場面を題材に、どの権利がその状況を支えるのかを考えることで、「子どもの権利」を実感を伴って理解できる学習型ゲームです。

アクティビティ STEP I－D2 元少年兵と学ぶ コンゴ紛争と私たちの生活

レアメタルを巡るコンゴ民主共和国の紛争を題材に、私たちの生活が世界の思いがけない場所と繋がっていることに気づくことを目的としています。元少年兵の経験談や現在の活動をふまえ、このような問題に対して自分には何ができるのか、また、どのような関わり方ができるのかを考えます。

STEP2 目標を決めて、アクションプランをたてよう

アクションを起こす意義

地域社会・国際社会で起こっている問題をどうすれば解決できるのか。それは一人ひとりが行動を起こし、小さなアクションをみなで協力して積み重ねていくことが非常に重要です。アクションを起こすことで、さらに問題を深く知り、時にその問題の不条理さを知り、やる気を失うこともあるかもしれません。しかし、だからといって諦めるのではなく、社会を変えていくために発信や行動を継続して行うことが非常に重要です。継続して行動を起こしていくにあたり、最初のアクションがつらいものや楽しくないものと感じてしまうと、心理的にも壁ができてしまいます。

そこで、この FTC チェンジメーカー教育プログラムでは、自分の得意なことを活かしながらアクションを起こし、楽しむことを提案しています。STEP2のワークを積み重ね、個人で、グループで楽しくできるアクションを作り出してみてください。

そして、STEP4での振り返りで、社会に起こした変化だけでなく、自分自身の変化にも気づけることを楽しみに、授業を進めてください。

チームで活動する意義

個人ひとりの力ではなかなか進まない社会問題の解決も、様々な人と協力することで、予想以上の大きな力やうねりを生み出し、有効な解決策を生み出すことができると私たちは信じています。なぜなら、人は一人ひとり違いがあり、得意分野も思考も違います。だからこそ、他者と協働することで、相互に強みを活かして弱みを補い、新しい知恵が生み出され、新たな可能性へとつながるのです。

チームで活動することによって、自分だけでは想像することができないアイディアが生み出されたり、自分では当たり前のこととしてやっていたことが、他者の困難を解決するために役立ったりするなど、チームの力をどんどん高めていくことができます。多様な価値観をもった多くの人たちの知識や考え方を共有しあえばしあうほど、革新を生み出すようなアイディアなどを創造する可能性が高まります。

チームで活動するにあたり、特定の強いリーダーが常に支持を出すスタイルを想像する人が多いかもしれません。けれども、私たちフリー・ザ・チルドレン・ジャパンは、チームメンバー一人ひとりがリーダーである、という考え方を推奨します。つまり、チームの全員がリーダーシップを発揮することが重要だと考えます。チームの全員で目的を共有し、個々の得意なことを活かしながら、自ら考えつつ、他のチームメンバーを尊重しながら協力して行動することで、課題を解決できる力がより大きくなります。 それは、皆が課題解決に向けて貢献するかたちです。大切なことは、一人ひとりが自分を見つめ、また、他者が持つポジティブな面に着目し、メンバー各自が持つ力に気づくことです。自分から主体的に関わり、チームの役に立っていることを実感することで皆が喜びを感じることができるでしょう。

他者の役に立つということは、自分の喜びにもなり、人生をより豊かにすることにも繋がります。身の回りの課題、地域社会、国際社会の課題を自分ゴトとして捉え、自分から主体的に行動し社会に自分なりの方法で貢献する力を身に付けられるよう、チームでのアクションの実施にぜひ、取組んでみてください。

STEP2−A チームビルディング

グループでアクションを起こすために、チームメンバーである仲間の特徴を理解して、それぞれのリーダーシップに気づき、認め合い、その個性を最大限活かせるアクションプランを立てることが重要です。まずはチームの結束力を高めます。楽しいワークを通して、チーム力をつけていきましょう。

このセクションのねらい・つけさせたい力・評価の観点

ねらい

・グループで仲間と一緒にアクションを起こすために、仲間の特徴を理解し、得意なことを活かし協力しあおうという気持ちが醸成できている。
・チームで動くときの目標や目的及び必要に応じてルールを設定し、それらが共有され各メンバーが理解していることの重要性に気づくようになる。
・人はそれぞれ感じ方や価値観が違うため、相互理解のためにはコミュニケーションをとることが重要であることを理解するようになる。

評価

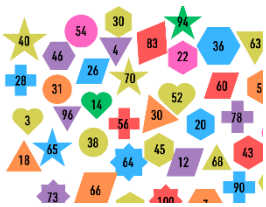
・チームメンバーの違いを強みに役割分担をして、各メンバー一人ひとりの存在が重要であると感じているか。
・チームの目標や目的及びルールが共有されるよう明文化するなど工夫しているか。
・チームメンバー全員が参加するようなかたちでコミュニケーションをとれるよう工夫がされているか。

アクティビティ STEP2−A1 コールキャッチボール

相手の名前を呼びながらボールを投げることを基本に、ミッションを達成するために協力し、アイディアを出し合いながらチームワークを培うことができるアクティビティです。アイスブレイクとしても活用することができます。

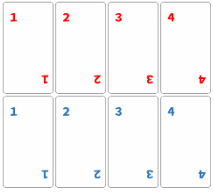
アクティビティ STEP2−A2 ナンバー・タッチ

ミッション（目標）を達成するためには、チームにどのようなルールを設けるとよいか、仲間にどのような配慮があるとよいかを認識することができるようになります。準備は特にする必要がないので、すぐに実施できる手軽に始められる簡単なアクティビティです。



アクティビティ STEP2−A3 ラインアップ

1〜10 の数字が書かれたカード（トランプでも OK）を順番に重ねるゲームを通じて、チームワークの心構えや注意事項について学び・考えるアクティビティ。チームでアクションを成功させるためには、目的意識と、様々な役割分担、コミュニケーションが重要であることを学ぶことができます。



STEP2−B アクションの種類

社会問題の解決に繋がるアクションとはどういったものがあるでしょうか。募金活動やゴミ拾いなどが一般的にすぐに思いうかぶ活動かもしれませんが、それ以外にも様々な種類があります。取り組みたい社会問題に応じて、解決に向けた多様なアプローチ方法があることを知り、アクションの幅をひろげてみましょう。

このセクションのねらい・つけさせたい力・評価の観点

ねらい

・アクション＝様々な種類があるというイメージを持つことができるようになる。
・自分が楽しめるアクションがどのようなものかイメージできるようになる。
・些細だと思われるようなアクションも社会問題を解決するためには重要であることを認識できるようになる。

評価

・アクションには様々な種類があり、どれも重要であるということが認識できているか。
・自分の（またはチームメンバーの）得意なことを活かせるアクションは何か、イメージすることができているか。

アクティビティ STEP2−B I インスピレーションカードゲーム

アクションには、大きく6つの種類に分けられます。その種類を頭に入れて、取り組みたい社会問題や目的に応じてアクションを何にするかを計画できるようになることが重要です。まずは、どんなアクションがあるのか、想像の幅を広げるために、このワークショップを実施することをお勧めします。

×社会問題
いじめ問題
×アクションの種類
啓発活動
＝アクション
それぞれの個性を認める雰囲気作り。個性的なデザインの靴下で登校する日！

▼アクションの種類

FTC チェンジメーカー教育プログラムで提案するアクションは大きく分けて 6 種類。これらの分類をベースに、自分の得意なこと、好きなことを掛け合わせて、様々なアクションを起こすことができるでしょう。

▶啓発活動 ・・・・・・ 他の人に、自分の解決したい問題について知ってもらうために活動する方法
▶政治変革・・・・・・ 政策として変化を起こすために、政治機関に対して働きかける方法
▶自己行動変容・・ 自分の良くない癖や習慣を、良いものに変えていく方法
▶資金調達・・・・・・ 個人、企業、財団、政府機関などから、寄付を集める方法
▶ボランティア・・・・ 自分の時間を解決したい問題のために使う方法
▶物資支援・・・・・・ 必要としている人に届けるため、物を集めて支援する活動方法

STEP2−C アクションプランを考える

児童・生徒（学習者）が仲間同士で、社会問題に取り組むためのアクションを起こすにはどうしたらよいか、そのステップを一緒に学んでいきます。自分たちの好きなことや得意なことを活かしながら興味関心がある社会問題に対してどのようなアクションを起こせるかを考えます。アクションをゼロから考えるのが難しい場合は、ぜひ「アクションキット」を活用してみてください。

このセクションのねらい・つけさせたい力・評価の観点

ねらい

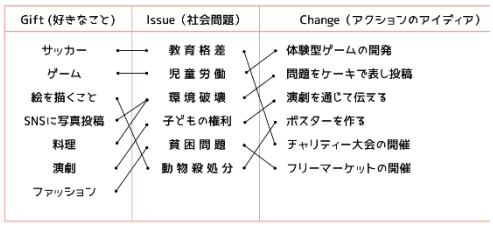
・アクションを起こすために、重要な要素を理解できるようになる。
・役割や責任を明確にしてアクションを行う重要性を理解できるようになる。

評価

・アクションを起こすための役割分担はどういったものがあり、どう自分が関われるかを積極的に考え、取り組もうとする姿勢がみられるか。
・仲間同士の個性や得意なことを活かそうと前向きに考え、コミュニケーションをとろうとしているか。

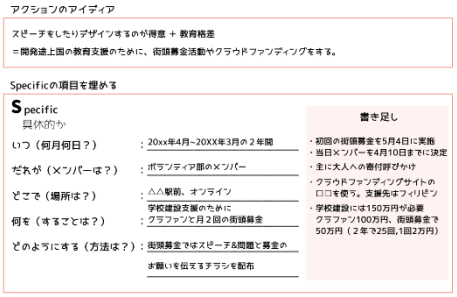
アクティビティ STEP2−C1 Gift + Issue ＝ Change ！

アクションキットの利用をせず、学習者がゼロからアクションを考える場合や、個人でアクションを起こす際に特に有効なアクティビティです。自分の興味のある社会問題に、自分のギフト（得意なこと、好きなこと）を使うことで、変化を起こすアクションを考えます。もちろん、複数の仲間でチームを組んでアクションを起こす際にも有効なアクティビティです。
※右の図は、「オリジナルアクションキット」掲載の書き方例です。



アクティビティ STEP2−C2 S.M.A.R.T 目標を知ろう！

アクションを成功させるためには、まずはしっかりと活動の計画を立てることが大切です。具体的で現実的、そして、アクションの実践者となる学習者の個性や思いに一番合った計画を立てるためのアクティビティです。


アクションのアイディア

スピーチをしたりデザインするのが得意 + 教育格差
＝開発途上国の教育支援のために、街頭募金活動やクラウドファンディングをする。

Specificの項目を埋める

Specific 具体的か		書き足し
いつ（何月何日？）	：20xx年4月−20XX年3月の２年間	・初回の街頭募金を5月4日に実施
だれが（メンバーは？）	：ボランティア部のメンバー	・当日メンバーを4月10日までに決定
どこで（場所は？）	：△△駅前、オンライン	・主に大人への寄付呼びかけ
何を（することは？）	：学校建設支援のために クラファンと月２回の街頭募金	・クラウドファンディングサイトの □□を使う。支援先はフィリピン ・学校建設には150万円が必要 クラファン100万円、街頭募金で 50万円（２年で25回、1回2万円）
どのようにする（方法は？）	：街頭募金ではスピーチ&問題と募金のお願いを伝えるチラシを配布	

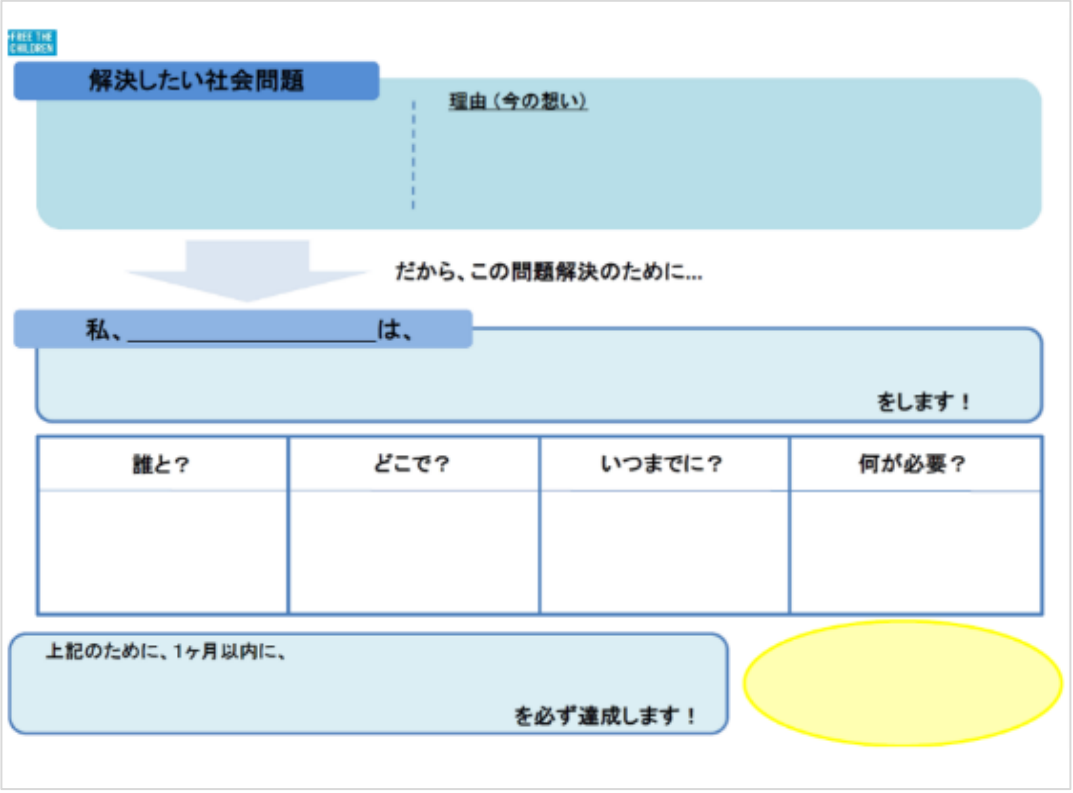
▼「S.M.A.R.T. 目標」とは

大きなゴール（最終目的）を達成するためには、達成可能な小さなアクションの積み重ねが不可欠です。それらの小さなアクションを大きなゴールへとつなげるための5つの指標が S.M.A.R.T. 目標です。アクションプランを立てるときに、S.M.A.R.T. 目標に照らし合わせて考えることで、より具体的な道筋が見えてきます。アクションプランを立てるときのコツとして、「確実にできること」、「明確であること」、「簡潔であること」に気を付けるようにしましょう。※詳しくはアクティビティ STEP2—C2 を参照ください。

S.M.A.R.T. 目標
Specific （具体的）: アクションプランに必要な項目を一つ一つ細かく具体的に考えること。
Measurable （測定可能）: 何が「成功」や「達成」で、それをどう測るのかを決めておくこと。
Achievable （達成可能）: 今置かれている状況で実際に実現可能なのか、現実的なのかを考えること。
Relevant （関連性）: 取り組もうとしている社会問題に明確につながっているのかを考えること。
Timeline （タイムライン）: いつまでに実施すべきか、アクションはどの順番で行っていくのかを時間軸で考えること。

▼アクションプランを考えるためのシンプルなワークシート

「もう少しシンプルにアクションプランを考えたい」、「どうしても時間がない」、そんな時は、以下のワークシートをご活用ください。このワークシートは、社会問題に対してだけでなく、テスト勉強や自由研究を実施する際にも活用できます。



＊こちらのワークシートを使用される場合も、SMART 目標を先に説明していただき、学習者が具体的な計画を立てられるように応援することをお勧めします。

アクションキット

「何かしてみたいけど、どうしたらよいかわからない」、という子どもたちのために、様々な**アクションキット**を用意しています。どのアクションキットでも、『社会問題を学ぶ→アクションを考える→アクションの実施→振り返り、たたえ合う』の FTC チェンジメーカー教育プログラムの 4 ステップに取り組むことができます。また、各アクションキットのワークシートを抜き出してご活用いただくこともできます。活動証明書の発行にも対応しておりますので、ぜひご活用ください。 https://ftcj.org/we-movement/weactioncampaigns

【オリジナルアクション】

オリジナルアクションキット：自分の好きなこと・得意なことを活かしたアクションを起こそう！

解決したい社会問題に対して、自分の好きなこと・得意なことを活かしたオリジナルのアクションを起こすためのキット。個人やグループの興味・関心に合わせて、アクションを計画・実行することができます。 詳細ページ

【テーマ別アクション】

SPEAK UP アクションキット：「変だな」と感じることに声をあげて、未来に変化を起こそう！

私たちは、言葉を使って想いを分かち合うことで、社会を変えることができます。また、子どもの意見表明権は、子どもの権利条約でも保障されています。ロビイングや手紙、スピーチを通して声をあげるためのキット。 詳細ページ

Love Fair Festival アクションキット：エシカルなイベントを開いて社会問題に取り組もう！

フェアトレード商品を売ったり、社会の問題をより多くの人に知ってもらうための出し物をするなど、文化祭などの学校行事や地域のイベントにエシカルな要素を取り入れて、楽しくアクションに取り組むためのキット。 詳細ページ

CREATE CHANGE アクションキット：10 円玉を集めて、収入向上の機会を応援しよう！

10 円玉を 5,000 円分集めると、支援地域にヤギ 1 頭を送ることができます。子ヤギやミルクを売って家計の収入が向上すれば、学校に通える子どもたちがいます。小さな力を集めて大きな変化を起こすためのキット。 詳細ページ

SHARE CARDS アクションキット：書き損じはがきを集めて、命を守る検診を全ての人に！

一人の子どもに検診の機会を提供するのに必要なのは2,500 円。書き損じはがき集め、医療支援を提供するためのキット。 詳細ページ

BOOK BETTER WORLD アクションキット：古本を集めて換金して、教育の機会を応援しよう！

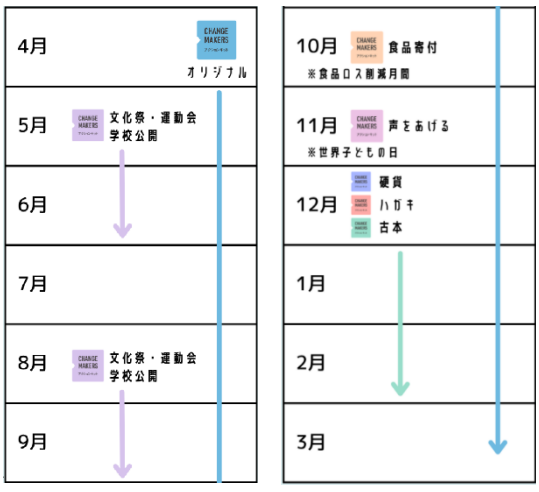
学用品セットを一人の子どもに提供するのに必要なのは3,000 円。古本集めを通して、学用品のセットを子ども達に届けるためのキット。 詳細ページ

SCARE HUNGER アクションキット：眠っている食品で地域の人のチカラに！フードドライブで、食品を必要としている人に届けよう！

お家にある食品を学校や職場などで集めてフードバンクへ届け、フードドライブを行うためのキット。フードロス対策にもつながります。 詳細ページ

アクションキャンペーン

フリー・ザ・チルドレン・ジャパンでは、子どもの活動を全国で盛り上げるために、各アクションに集中的に取り組む時期やその年のテーマを決め、「アクションキャンペーン」という形でアクションへの参加を呼びかけています。キャンペーン中に実施した活動を報告していただき、同時期に全国でどれくらいの人が参加し、どれくらいの成果が出たのか集計・公開しています。「校内での活動を全国とつながりを持って取り組みたい」、「活動を取り組む時期の目安にしたい」時など、ぜひ各キャンペーンをご活用ください。



【キャンペーンの実施時期の目安】

活動証明書の発行

FTC チェンジメーカー教育プログラムに参加した学校、児童・生徒のみなさんには、活動証明書を発行することができます。FTC チェンジメーカー教育プログラムのサイトより、活動報告をお送りいただくと、その内容に準じた証明書をメールにてお送りしております。

正式な押印や指定の書式がある場合、その旨をご連絡いただき、当団体オフィス(東京都世田谷区)へお越しいただくか、切手を貼った返信封筒を入れて、ご送付ください。指定の書式が煩雑な場合、お時間をいただく他、書き損じはがき等の寄付も合わせてお願いしております。ご協力の程お願い申し上げます。

ボランティア参加証明書

様

●●●●ボランティア活動
に参加されたことを証明します。

活動内容:●●●●●
活動日:2019 年●月●日
時間:●●●●●●
成果:●●●●●●

Thank you so much for your support!

2019 年●月●日
特定非営利活動法人
フリー・ザ・チルドレン・ジャパン

出前授業

フリー・ザ・チルドレン・ジャパンは、毎年全国 100 校以上で出前授業を実施しています。FTC チェンジメーカー教育プログラムを学校で取り組まれる際、プログラムの設計や一部授業、先生方を対象とした研修の実施を、フリー・ザ・チルドレン・ジャパンのスタッフが担当させていただくことも可能です。
主に総合、社会、道徳、英語、キャリア教育などでのご依頼が多く、学級・学年、対面・オンラインなど様々な授業形式での実績があります。カリキュラムやクラスの状況などをヒアリングの上、20 年以上蓄積してきたノウハウから、各校のご希望に合わせた授業・ワークショップを設計、実施いたします。費用につきましては、スタッフの派遣回数や期間に応じてご相談可能です。

FTC チェンジメーカー教育プログラム・出前授業の導入事例

長期：世田谷区立烏山小学校（授業期間５月～１２月）
学年：５年生　教科：総合的な学習

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
打合せ	1回目授業	調べ学習 →		夏休み	発表① 2回目授業	アクション実践 →		発表②	冬休み	振り返り 他の取組	

【具体的な流れ・内容】

１学期：4月に先生と打合せ、5月にFTCJスタッフによる授業で諸問題について知るワークを通しSDGsへの理解を深めた後、興味を持ったゴールについて個人やグループで調べ学習を行う。
２学期：9月に調べ学習の発表後、アクションの起こし方と計画の立て方の授業を受ける。10,11月グループごとに実施するアクションを決め、計画を立て、実行。12月にアクションの成果や学びについてまとめて発表する。（FTCJスタッフからフィードバックも可能）

【子どもが取り組んだアクション】

・子ども食堂が地域に少ないことについて区議会議員に手紙を書いて質問する。
・学校公開日に昇降口で募金活動を行い、集まったお金を水の支援を行う団体に寄付する。
・児童労働について知ってもらうために、児童労働についての情報や募金活動について説明したものを風船につけて学校の屋上から飛ばす。（※生分解性の素材の風船を使用）

【子どもの感想】

・社会問題は自分からは遠い・関係ないものと思っていたけれど、身近なことから協力できることに気づいた。
・僕たち子どもは、誰が社会に意見を言っても変わらないと思っていたが、積極的に意見を伝え続ければ、少しでも社会を変えることができるんだと思うようになった。

高等学校（複数校）
対象：１、２年生　教科：総合的な探究　テーマ：児童労働

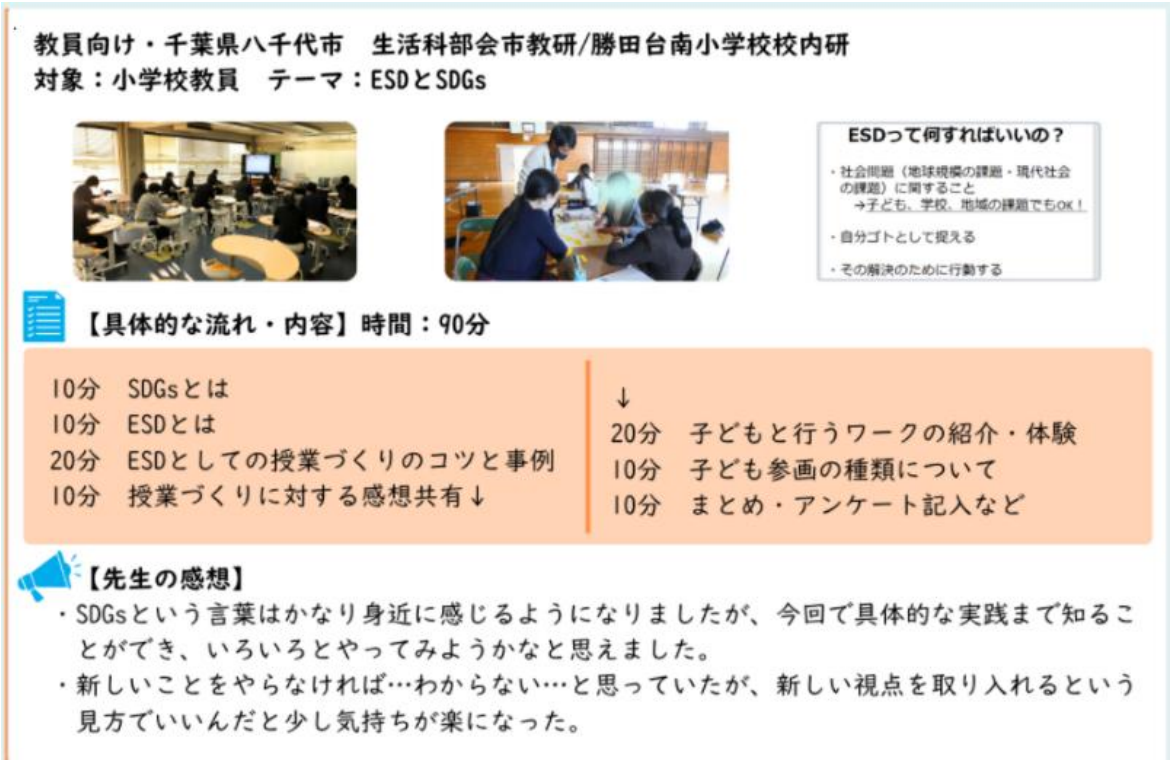
この授業事例では、P6.③「児童労働シミュレーションカードゲーム」を使用しています。教材をご購入いただき、ご自身で実施いただくことも可能です。

【具体的な流れ・内容】時間：2コマ100分の場合（1コマの場合は左側のみ）

10分　世界の貧困や児童労働の概要	↓
5分　児童労働シミュレーション　説明	10分　休憩
10分　カードゲーム　実施	10分　行動した子どものストーリー
15分　振り返り	15分　自分にできることを考えるワーク
10分　解説・まとめ↓	15分　振り返り・解説・まとめ

【生徒の感想】

・カードゲームで、カードを引く度になぜ、どうしてと衝撃を受けた。全て実際に起きていることだと知り、すごく驚いた。最終結果でも、自立ではなく死亡（ゲームオーバー）になったグループが圧倒的に多く、これが現実だと思うと辛くなった。
・児童労働の背景について初めて知り、消費者という立場から正しい選択をしていかなければならないと思った。



【コラム】

□ファシリテーション

「ファシリテーション」という言葉を聞かれたことはあるでしょうか。「ファシリテーション」とは、これからの先生に求められるスキルとして注目されている、アクティブ・ラーニングにおいて子どもたちの意見を引き出すためのスキルです。ここでは、なぜ今先生方にファシリテーションスキルが求められているのか、そして、「ファシリテーション」を行う「ファシリテーター」としての先生に求められているのは、具体的にどんな役割なのかご紹介します。

戦後復興期～バブル崩壊まで、日本は基本的に好景気、経済は概ね安定的・直線的に成長すると考えられており、今と比べ価値観も画一的で、言うなれば「予測可能な世界」でした。当初、日本は行動主義の学習観に基づき、知識は「刺激に対する反応・行動のレパートリー」と考えられていました。そのため、学習方法は教員主導の一斉授業と反復学習が奨められていました。しかし、1960 年代になってその限界に気づき、認知主義が導入されます。認知主義において、知識は「構造化して認知された情報」と考えられていたため、系統立てて学習することが推奨されましたが、いずれにしても、知識を得るということは、行動主義同様「何らかの正解を覚える」という発想だったため、教育の目的は知識や技能の習得で、「できること・わかること」が重視され、先生の役割は、「子どもに知識を伝える権威的な立場」でした。

しかし、バブル崩壊以降、経済は停滞し、情報化・グローバル化による価値観の多様化が進み、先の見えない、「予測不可能な世界」になりました。そんな中で、学習観は社会構成主義に変化し、知識は「社会的・文化的文脈の中で、他者と共同的に作り上げていくもの」と捉えられるようになりました。そのため、学習方法は、対話や協働を通じて意味を構築するアクティブ・ラーニングが主流になり、教育の目的も、この正解のない世界を生きるのに必要な、批判的思考・創造性・協調性・問題解決能力の習得へと変化しました。これにより、日本の教育において重視されるのは、従来の「できること・わかること」ではなく、「共に創ること・分かち合うこと」へと変化し、先生の役割は、正解を教えるのではなく、主体的・対話的で深い学びを生み出すために、気づきを促す立場に変化しました。この役割を果たすためのスキルが、「ファシリテーション」です。

では、この「ファシリテーション」を行う「ファシリテーター」としての先生に求められているのは、具体的にどんな役割か、大きく3つに分けて説明します。

まずは、「傍らにいる人」としての役割です。
・子どもが自ら考え、試行錯誤し、学ぶ喜びを見出すプロセスを尊重するために、教えすぎない。
子どもたちの状況を深く理解し、必要なタイミングで、必要な支援だけを厳選して行う。
・子どもが自ら困難に向き合う力を引き出すために、「待つ支援」を行う。
子どもたちの中に答えや気づきが生まれると信じ、共感的に寄り添う。
・失敗を恐れて挑戦できない子どもの傍らにいて「大丈夫、見ているよ」という安心感を与え、
先生が傍らにいることが、子どもが自ら勇気を出して、新しいことに挑戦する原動力になるような関わり。

次に、「心に寄り添う人」としての役割です。
・スキルやテクニックではない、相手と心を通わせるためのコミュニケーションにより、
子どもたちが安心して意見を発することのできる場づくりを行う。
・評価者としてではなく、二人称的に子どもと関わり、彼らが今何を感じ、どう変化しようとしているのか、
現在進行形で理解しようと努める、メンターのような関わり。

最後は、「対話の共創者」としての役割です。
・互いの考え方の違いを認識し、そこから新たな意味や共通理解を生み出す創造的なプロセスとして
「対話」を重視し、子どもたちの意見を引き出す。
・「対話」を通じて、一人ではたどり着けなかった結論やアイディアを創出する場を提供する。

「ファシリテーション」という言葉は、一般的に話し合いの場面において、必要なスキルとして語られることが多いのですが、実は、ただ意見を引き出すだけでなく、主体的・対話的で深い学びを生み出し、さらには、信頼関係の構築に必要な心構えも多分に含むスキルです。

近年教育現場では、働き方改革の影響もあり、子どもたちとコミュニケーションを取る時間が限られ、信頼関係の構築がより一層困難になっているかと思います。このファシリテーターとしての関わりは、いわば授業の中での対話を通して、先生方と子どもたちが信頼関係を醸成する方法でもあります。それゆえに、近年注目されているスキルであり、また簡単ではないスキルなのですが、学びの深化だけでなく子どもたちとの関係構築にもつながるものです。

フリー・ザ・チルドレン・ジャパンでは、子どもたちに関わるみなさまがファシリテーションスキルを身に付けられるよう、ファシリテーションスキルに関する教材や動画を公開しております。ぜひご活用ください。　**ファシリテーションスキル　教材・動画**

STEP3 TAKE ACTION!アクションを起こそう

STEP3—A アクションを起こすコツと注意点を知る

アクションプランを立てることができたら、あとは実行するのみです。しかしながら、初めてアクションを起こす児童・生徒（学習者）にとっては、この一歩の前に大きな壁が立ちはだかっていることもあるでしょう。なぜなら、アクションを実施するには勇気や決意が必要だからです。その一歩を踏み出すためにも、活動を進める上でのルールを確認したり、やりきるアドバイスを送ったりして、スタートを後押しすることがとても重要です。

このセクションのねらい・つけさせたい力・評価の観点

ねらい

・モチベーションを高めて、楽しくアクションに臨めるようになる。
・安全にアクションを行うために、ルールを確認する。

評価

・積極的にアクションを起こすことができているか。
・ルールを守り、仲間同士協力し合いながらアクションを実行できているか。

アクティビティ STEP3—A アクションの内容を見直そう

アクションを開始していると、計画通りにいかないことが多々あります。そういった場合、最も回避すべきことは、「ただ続ける」ことです。目的の達成でなく、「続けること」が目的になると、気持ちもつらくなり、仲間との関係もギスギスしだしてしまいます。折にふれて、活動の目的が何であったかを確認することが大切です。

※このアクティビティに特定の教材はありません。以下の「アクションを成功させるために」を参考に、活動を進める上でのルールを確認したり、活動中の声かけやアドバイス、伴走をお願いします。

――― 実践事例：子どもたちから企業への提言活動 ―――

中学３年生の子どもたちが、児童労働者が関わっていないチョコレートの製品を作ってほしいと、製菓会社である「森永製菓」の社長へ手紙(嘆願書)を書き、フェアトレードチョコの板チョコが量産されることになりました。その後、残念ながら値段が高いことが理由で売り上げが伸びず、商品はなくなってしまいましたが、森永ダースを買うと、企業が児童労働廃絶活動を行っている2つの NGO に寄付を行う、という仕組みに生まれ変わり、現在に至っています。（認定 NPO 法人 ACE より）

▼アクションを成功させるために ――――

以下、フリー・ザ・チルドレン・ジャパンの活動に参加するメンバーに伝えている、「アクションを成功させるためのコツや注意点」です。ぜひ参考にしてみてください。

◆活動をやりきるアドバイス
・楽しさを取り入れよう。　例：ミーティングの最初にアイスブレイクゲームをする。
・活動の成果に途中途中で目を向けて、成果を実感していこう。
・チームで取組む場合は、メンバー同士で頑張っていること、よかったことを言葉にして伝えよう。
・無理なく実施ができているか。時と場合に応じて計画は見直して変更して OK。
・楽しむことを忘れずに！

◆活動で守ってほしいこと
・活動をする仲間や活動を通じて知り合った人に対し、年齢、人種、宗教・信条、民族性、障害、性的指向、外見を基準に差別や相手を傷つけるような言動はせず、多様な考えや価値観を理解するようにする。もし意図せず相手を傷つけてしまったら、立場に関係なく謝罪をすること。
・熱中症対策、交通機関のルール確認、避難経路の確認など、危険防止、安全に十分に配慮する。
・チームのメンバーの顔写真や名前などの個人情報を本人の許可なく無断で SNS に載せない。
・活動を通じて知り合った人と、活動と無関係な理由で頻繁に電話、メール、チャットをしない。困ったらすぐに先生やおとなに相談する。
・子どもとおとなは密室で 2 人きりにならないようにする。
・お金の貸し借りは原則しないこと。活動にお金が必要な場合は、どのように集め・管理するかをしっかりと話し合って決めよう。

※子どもの権利条約に従い、「子ども」とは 18 歳未満のすべての人と定義しています。18 歳未満の子どもは、権利を持つ主体であり、おとなと同様ひとりの人間としての尊重されるべき存在であり、成長の過程で特別な保護や配慮が必要と考えています。

◆活動を記録する際のポイント
①成果の記録
・アクションを実施した日数
・設定した数値目標に対する結果（協力者数や成果の数値）

②プロセスの記録
・成果を出すために、どのような行動を起こしたか。簡単だったこと、難しかったことはどんなことか。
・一番楽しかったこと、印象に残ったことはどんなことか。
・地域の人たちは活動に参加してくれたか。
・次回行うとしたら、改善したいことはなにか。
・このアクションを通じて、どんな影響を与えることが出来たと思うか。
＊写真や動画が撮れる場合
活動中の様子、活動場所の様子、準備したもの、成果物、新聞記事などを記録する。

STEP4 アクションを振り返り、たたえ合おう(お祝いしよう)!

STEP4−A 振り返りをする

アクションの振り返りは継続して活動に取り組むために非常に重要です。振り返りは「反省会」になりがちですが、そうならないように、活動の成果を数値化したり、学習者がどのような学びを得たか、もたらされた変化としてどのようなことがあったかなど、成功体験をポジティブに共有できるようサポートしてください。しかしながら、振り返りをすることで学習者は自分たちのアクションは些細で、自分は無力なのではないかと感じることもあるかもしれません。

フリー・ザ・チルドレンの創設者のクレイグは中学生のとき、社会問題の大きさに打ちひしがれ、自分の活動に意味があるのだろうかと悩みました。児童労働という大きな国際問題に対し、子どもの自分にはできることなど無いのではないかと感じたのです。そんなとき、故マザー・テレサから、「私たちは、いっぺんに世界を変えることはできません。でも、自分にできる小さなことに対して大きな愛をもって取り組めばいつか世界は変わるのです。」という言葉をもらいました。

どんなことも、小さな事象の積み重なりで変化が起きるのです。今回限りで終わらず、長期的な視点を持って、今後につながることを意識するよう、学習者を応援してください。仲間や協力してくれた人への感謝を忘れずに、自分たちの起こした変化をお祝いしましょう!

このセクションのねらい・つけさせたい力・評価の観点

ねらい

- 成功体験としてたたえ合えるような振り返りをする。
- 生涯かけてグローバル・シティズンシップとしての素養を身に付ける。

評価

- 振り返りの時に、文句や反省ではなく、活動の効果に着目できているか。
- 改善すべきことがあれば、具体的な数値や提案が考えられているか。
- よかったことや仲間に感謝していることを伝えられているか。
- 今後も続けていきたい、何かしたい!という気持ちを育めているか。

アクティビティ STEP4−A1 グループで振り返りをしよう

各アクションキットにあるワークシート「アクションを振り返ろう!」を使って、活動の振り返りをするアクティビティです。自分たちが起こしたアクションは、社会や世界にどのような変化をもたらすことができたのか、工夫したことはどんなことか、困難をどう乗り越えたか、そしてアクションを起こすことを通じて学んだことを言語化することで、それは「体験」ではなく「経験」になります。ワークシートは、ポートフォリオとしても活用できます。

アクティビティ STEP4−A2 アクションの報告をしよう

取り組んだアクションを FTCJ に報告して、アクションのインパクトを知るためのアクティビティです。FTCJ では、みなさんの報告を数値化して年に一度発表します。世界中にいる、自分たちと同じようにアクションを起こした仲間の存在を知り、世界に対して自分のアクションを伝えるチャンスです。このアクション報告を、ぜひムーブメントのきっかけとしてご活用ください。https://ftcj.org/we-movement/westory

アクティビティ STEP4−A3 「あったかメモ」をプレゼントしよう

同じアクションを行った仲間に、感謝の気持ちを込めてメッセージ(＝あったかメモ)をプレゼントするアクティビティです。活動中の具体的な行動にふれながら、仲間の良い所や、その仲間の行動がどう嬉しかったのかを書いて、仲間にプレゼントしてみてください。自分一人では達成できないことも、仲間がいれば達成できること、自分の良い所に気づくきっかけになります。

▼アクションを起こすことによる変化

フリー・ザ・チルドレン・ジャパンで活動する子どもメンバーは、実際にアクションを起こすと、様々な変化を感じているようです。頭の中で考えているだけでなく、行動することがまずはとても大切です。そしてそのような自分を受け止めてほめてあげることも非常に重要です。実際に行動を起こすと、「価値観」や「行動パターン」に変化が訪れます。

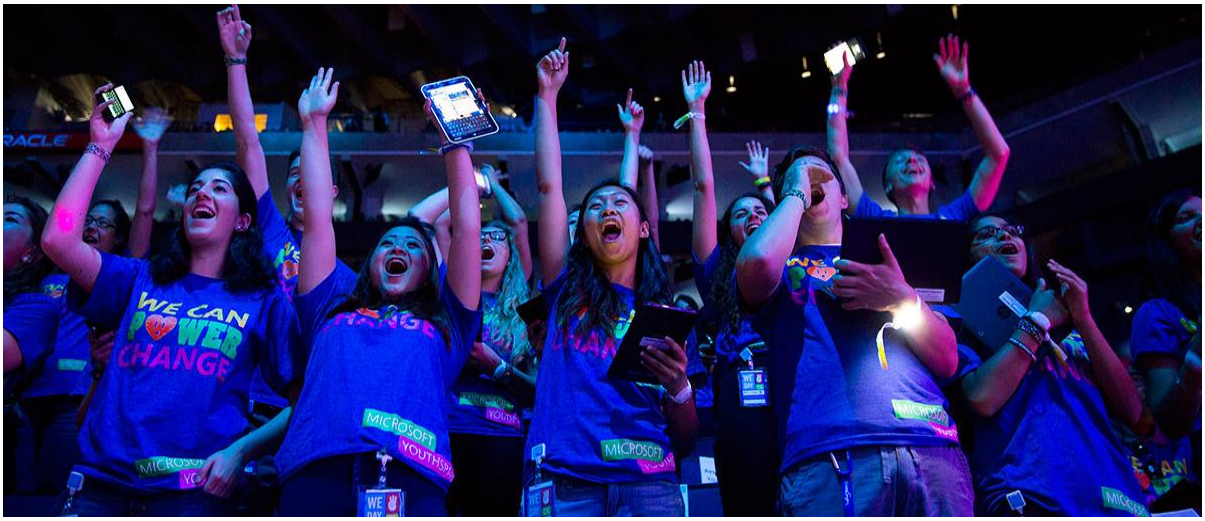
「目立つことを恐れなくなり、自分で発言することができるようになり増えてきた」（小学５年生）
「やりたいことがどんどん増えていった」（中学１年生）
「社会問題に次々に興味がわき、疑問も生まれるようになった」（高校１年生）
「様々な国に興味を持つようになった。世界で起きている面白いことにどんどん触れていきたい！」（高校２年生）

学習者のみなさんにも、このような変化がきっと起こります。これからの世界をよりよくする、グローバルシティズンとしての今後の活躍を心から応援しています！

STEP4−B Change Makers Fes に参加する

「Change Makers Fes(チェンジメーカー・フェス)」とは、国内外の社会問題に対してアクションを起こした子どもたちを無料で招待し、彼らのアクションがいかに意義深く、より良い世界を作るための第一歩となっているかを著名人や活動家を招きながらスピーチやパフォーマンスを通して伝え祝い、さらに今後も継続して社会問題の解決につながるアクションを起こすチェンジメーカーになるよう応援する内容となっています。

「Change Makers Fes」に参加することで、様々な社会問題に触れるこができ、それらの問題に対して同世代の仲間がたくさんいることを体感し、子どもによるアクションの事例を相互に学ぶことができます。



このイベントに参加することで、一過性のボランティア活動で終わることなく生涯かけてグローバル・シティズンシップとしての素養を身に付けることが期待できます。
SDGs につながる社会問題に対して、ボランティアや募金活動など何らかのアクションをした、アクションレポートを提出していただくことで、無料で参加することができます。

詳しくは、イベント特設ページをご覧ください。
https://changemakersfes.ftcj.org/

チェンジメーカーとなった先輩たち

瀬川愛葵

15 歳～18 歳まで FTCJ プログラムへ参加

加藤学園暁秀高等学校卒

Soka University of America 卒

現在

性的被害者の相談と政策提言を行う

NGO のスタッフ

●学生時代はどんな活動をしましたか？

FTCJ は、高校 1 年生の私に、「将来」ではなくて「今」行動を起こし世界平和に貢献することができることを教えてくれました。「おとなにならないと世界に大きな変化をもたらすことはできない」という私の中で自然と刻み込まれていた概念が覆されました。「過酷な生活を強いられている子どもたちが世界中にたくさんいるのに、私は何もしなくていいのだろうか」と自分に問いかけるうちに、何かアクションを起こしてみようという気持ちになっていきました。そして、子どもがアクションを起こすため、アイディアを FTCJ からもらって、私は高校のクラスメイトや後輩たちと共に 2 年間募金活動を続け、約 74 万円の善意の資金をいただき、モンゴルの子どもたちのためにゲル図書館を建てることができました。

●その後の人生にどのような影響を与えましたか？

リーダーとして試行錯誤を繰り返しながら活動する中で、様々な立場や考えの人々と交渉したり、多くの人をまとめたり、リーダーとして重要な決断を下したり、多くのことを経験しました。それらの経験はすべて、現在自分が人と接したりリーダーシップをとったり、世界の課題について考えたりする上で大きく生きています。高校卒業後はその経験を活かして大学で FTCJ のサークルのリーダーとして活動し、卒業後は児童買春に取り組む NPO 法人に就職しました。これからも一生をかけてすべての子どもたちが安心して幸せに生活できる世界の実現に貢献していきたいと思っています。今の私の原点を刻ませてくださった FTCJ に心から感謝です

●メッセージ

子どもメンバーの皆さんには、どこまでも自分の可能性を信じ、自分自身への挑戦を続けながら、「常に自分のアンテナを世界に伸ばし、広い視野を持ちつつも、行動は着実に自分の足元から」をモットーに活動していって欲しいと思います。私も皆さんと共にこれからも日々自分に挑戦していきます！

高井愛

16 歳～19 歳まで FTCJ プログラムへ参加

大学卒業後、児童養護施設に勤務

●学生時代はどんな活動をしましたか？

高校二年生の時に参加した FTCJ のプログラムで、アクションプランを作ったことをきっかけに、社会の課題に対して、何かしらの働きかけをしていくための小さな一歩が踏み出す方法を学びました。また、各地で活動をしているメンバーと交流しそれぞれの思いや考えを知ることができたことが印象に残っています。

●その後の人生にどのような営業をあたえましたか？

FTCJ のプログラムを通して、社会への関心が高まり、私たち一人ひとりが社会を創っていることに気づき、そのために行動するという視点を持つことができました。そのような考え方が、自分の生き方の基礎になっていて、日本の児童福祉をより良いものにしていきたいという想いを強く、現在は児童養護施設で働いています。

●メッセージ

活動をしていて、楽しいこともたくさんあると思いますが、悩んで苦しむこともたくさんあると思います。私は、本当に自分のしていることに意味があるのか、自分は何がしたいのだろうか、と悩むことが多くありました。悩んでも答えがでずに焦ったこともありました。答えは活動が終わってからずっと後にでることもありました。でも、悩んで自分で考えることを続けたことで、何かしらの変化が自分の中に生まれていき、それが積み重なって少しずつ自分がしたいことやすべきことが見えてくるのだと思います。 自分の想いを大切にして頑張ってほしいです。応援しています。

先生方の声

世田谷区立桜丘中学校
前校長　西郷孝彦先生

当校では、平成23年度より毎年、1年生が、フリー・ザ・チルドレン・ジャパンの出張プログラムを受けています。大変よく練られたプログラムで、社会課題について子どもたちも体験的に学ぶことができます。そして、「子どもでも世界を変えることができる」という、強いメッセージを受け取った生徒たちは、解決の為の方策を自ら考え自ら行動しようとします。文化祭や運動会で活動する生徒が毎年います。 ぜひ、教育関係の皆様には、出張授業を活用して子どもたちに自ら考える力・行動力を育てる良い機会にして頂きたいと思います。

加藤学園暁秀高等学校
ウェンドフェルト延子先生

*生徒たちはこの活動を通じ、海外の子どもたちに共感し、自分たちの目線でできることに取り組む機会となりました。 また、そこに至る過程で各種の課題に遭遇し、その性質を分析し解決する工夫や、実践の道筋を見つけ協力し、達成感も味わいつつ、各自が大きく成長することができたと思います。
そして活動をみごとに結実させることができました。*

明治学院　学院長
小暮修也先生

*「子どもが子どもの人権を守る」グループは、Free The Children が世界で唯一です。
同じ地球で、同じ時代を生きている子どもたちの未来を拡げていくフリー・ザ・チルドレン・ジャパンの働きに敬意を持って応援しています。*

鳥取城北高等学校
上村魁先生

*「自分たちにもできる」「もっと世界のことを知りたい」このプログラムを進めていくうちに生徒から聞こえてくるようになった声です。ある生徒は今まで読んだことのないジャンルの本を熱心に読むようになったり、また、ある生徒は「将来の目標が決まった」と希望進路を自ら提案するようになったり、その表情はエネルギーに満ち溢れています。
このプログラムでは生徒自身が一つひとつの経験を通し、考え、ときには立ち止まり、仲間と意見を交わしながら実践に至ります。したがって、生徒たちは自身の成長を実感しながら学びを深めていくことができました。*

≪ご利用フォーム送信のお願い≫

この度は、フリー・ザ・チルドレン・ジャパンの子どもの権利カードゲーム教材をご利用頂きまして、誠にありがとうございます。

よりよい教材作り、無料での教材提供継続のため、使用のご報告・ご意見をフリー・ザ・チルドレン・ジャパンまでお寄せください。

また、教材の使い方等、御不明な点は、どうぞお気軽にお問い合わせください。

教材ご利用フォーム

https://x.gd/AugOt

≪著作権に関するご案内≫

●教材・書籍等の著作権はフリー・ザ・チルドレン・ジャパンに帰属します。

著作権法上の例外を除いて、教材・書籍等の全部または一部を無断で複製したり、転写・引用・入力などしないでください。学校の先生が、授業で使うためにコピーを作って児童や生徒に配布することは「著作権法上の例外」なので、問題ありません。

●教材・書籍等を利用して、非営利目的の講義や参加型学習プログラムを実施する際には、事前の広報資料や当日の配付資料、事後のレポート等に、使用する著作物の著作権者が当団体にあることを明示ください。

例「当講座で使用する教材・テキストは、フリー・ザ・チルドレン・ジャパン発行の教材です。」

TOGETHER WE WILL
change the World

「持続可能な社会の創り手」のための
FTC チェンジメーカー教育プログラム ガイドブック

編　者：認定 NPO 法人フリー・ザ・チルドレン・ジャパン(FTCJ)

監修者：唐木清志（筑波大学教授）

◇FTCJ 事務局連絡先◇　〒157-0062　東京都世田谷区南烏山 6-6-5 3F
TEL　03-6321-8948／ Email　info@ftcj.org ／ URL　https://ftcj.org

更新 2026 年 4 月 6 日

CHANGE MAKERS 教育プログラム　FREE THE CHILDREN